

平成25年度 和歌山県文化賞

み うら けい こ
三 浦 啓 子 (本名 三浦圭子)

住 所：兵庫県西宮市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：昭和10年

ミックで力強い作風を確立した氏は、日本を代表するガラス造形作家として、現在も精力的に創作活動に取り組んでおり、文化の向上発展に尽くしてきたその業績は計り知れない。

◎業績及び経歴

昭和10年和歌山市に生まれる。同志社女子大学学芸学部2年を修了後、渡米。それまで油彩で光を描いていたが、昭和43年、ニューヨークで見たシャガールのスタンドグラスに衝撃を受け、ガラスに光の表現を見出す。Harvard Art SchoolでLyn. C. Hovey氏に師事、スタンドグラスを学ぶ。やがて、優雅で繊細なスタンドグラスに限界を覚え、素朴で力強いものを求め、昭和47年に、キャストグラスとエポキシ樹脂による新しい技法「ロクレール」を確立。昭和53年に第8回WCC世界クラフト会議で本技法を発表後、昭和61年に、「ガラス片接着厚肉装飾板の製造方法」の特許を取得した。

「ロクレール」とは、ロック(岩)とクリア(輝いた)を組み合わせた造語で、「輝く光の岩」を意味する。手作りの分厚いガラスをハンマーで打ち砕き彫刻のように造形することにより、あたたかみとシャープさがいまった素朴な光を生み、エポキシ樹脂で接合することにより、ガラスの絵画ともいべき作品に仕上げていく技法である。厚みあるガラスは、透過する光を和らげ、切断面が乱反射を加えて無数の小さな輝きを放つ。この存在感ある作品は、学校や教会、病院など国内外の公共施設の壁面や天井に多く設置され、東京国立博物館や六本木ヒルズ森タワー、県内では和歌山県立図書館や和歌山信愛中学校・高等学校等で氏の大作を見ることができる。

新手法「ロクレール」の創始者として知られ、繊細なスタンドグラスのイメージを覆し、ダイナ

■現在

日本スタンドグラス作家協会 会長

■主な表彰歴等

昭和44年 ハーバードアートエキシビジョン
平成4年 関西芸術大賞'92シルバー賞
平成20年 兵庫県文化功労賞
平成20年 神戸市文化賞
平成22年 兵庫県文化賞
平成25年 和歌山市文化賞